

セブンプラス

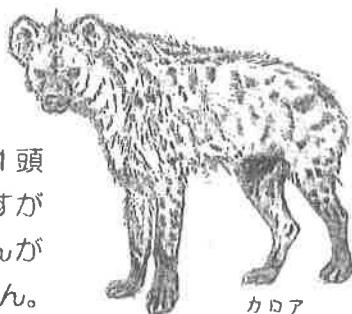
★それぞれの動物がいる場所はウラの地図をごらんください

①南アフリカから2頭が仲間入り**— ブチハイエナ —**

このたび、オスのカロア(2019年10月4日生れ)、メスのエサンドワ(2018年12月27日生れ)がやってきて、先に来園していたメスのイトウバ(2016年11月17日生れ)と合わせて3頭になりました。それぞれに個性があり、見た目や性格が違います。カロアはまだ幼くて体が小さめの甘えん坊、エサンドワはがっしりした体つきで物怖じしない性格、イトウバは意外と神経質で臆病です。顔立ちにも特徴があるので、よく観察してみてください。

野生のブチハイエナはクランと呼ばれるメスを中心とした群れで暮らします。

当園の3頭はそれ
ぞれ違う群れの出身
で一緒にすることが
むずかしく、しばらくは1頭
ずつ交代で展示されますが
でまれいき
適齢期がくれば赤ちゃんが
期待できるかもしれません。

**②地下に広がるマイホーム
— オグロプレーリードッグ —**

北米の草原地帯(プレーリー)に穴を掘り、群れで暮らすリスの仲間。体長30~40cm、体重1kg位、ずんぐりとした体型です。寿命は野生下で6年、飼育下で10年程度。オス1頭にメス数頭の一夫多妻の家族で暮らし、大きな群れはプレーリータウンと呼ばれます。天敵のコヨーテやタカ、ヘビなどが近づくと「キャンキャン」という犬のような警戒音を出すことから

この名前がつきました。巣穴は地中2~3mの深さで複雑につながっており、部屋には草が敷き詰められています。巣穴の入り口は雨でも水が入ってこないように盛り上っており、周辺に山のような見張り台を作り、ほじょう歩哨のように見張りをする習性があります。イネ科の草を主食とする草食です。

**③会いに来てね 新顔3兄弟****— コツメカワウソ —**

昨年、埼玉県智光山公園からやってきました。2017年生まれのイチは1番大きくて顔に白い部分が多い、ちょっとリーダー格。2018年生まれの弟たちは、2番目に大きくて口の辺りに黒い模様があるのがココロ。体が細く顔に黒い部分が多いのがコロン。今は新しい環境に慣れるため、いっぱい遊んで食べて寝て過ごしています。草むらがお気に入りで、隠れ家にしたり隠したエサを食べたり。コツメカワウソは声でコミュニケーションを取るのが得意なので、ワカサギのオヤツをもらえる時は後足立ちしてニャーニャー鳴いて飼育員さんに猛烈アピール。水かきとしっぽを上手に使ってスイスイ泳ぎ、陸に上がると麻袋や丸太・草などに身体をこすりつけて乾かす姿もお見逃しなく！

**④県内にも生息している****— カヤネズミ —**

イネやスキのようなイネ科の植物を「カヤ」と呼びます。そんなカヤの草むらにいるカヤネズミは、日本に生息する1番小さなネズミです。体は大人の親指位、重さも500円玉1枚位(7~8g)しかありません。長い尾を葉に器用に巻きつけ身軽に移動し、草の上に巣を作ります。巣の形はいろいろで、出産子育ての時には10cm程のボール状の巣(カヤ玉)を作ります。

これまで穀物を食い荒らす害獣と思われてきましたが、最近の研究で稻はほとんど食べず、田んぼの雑草やバッタを食べていることが分かりました。ずっと人に誤解されながらも健気に共存してきたカヤネズミ。最近は見かけることがむずかしくなっています。ぜひ、こども動物園の飼育センターでご覧ください。



⑤小鳥のようにさえずる 小さなサル

— ワタボウシタマリン —

(別名 ワタボウシパンシェ)



頭に植物の綿帽子をかぶった様子からこの名前がつきました。中央アメリカのコロンビア北西部の熱帯雨林で、4~20頭の群れで木の上で生活しています。高音で多彩な声

で鳴き、野生では果実、葉、芽、樹液、昆虫、小動物等を食べます。体長21~29cm、体重350~600g。赤ちゃんが生まれると両親が育て、兄や姉も手伝います。平均寿命は15歳位。天敵はフクロウ、タカ、ヘビです。

当園の展示の2頭は、オスが2010年生まれ、メスが2016年生まれ。枝から枝へ飛び移り、こちらをのぞき込んで首をかしげる姿が魅力です。

生息地が開発により破壊されて数が激減し、絶滅危惧種に指定されています。

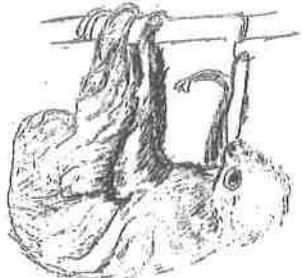
⑥目立たないのが安全の秘訣

— フタユビナマケモノ —

当園にはメス3頭、オス1頭のナマケモノがいます。夜行性で、バードホールでは木に隠れて見つけるのがむずかしいですが、1日1度のスコールの時間にはねれるのを嫌って動き回るので発見のチャンス。「動けば見つかる」ということがよくわかります。

敵と戦う武器を持たないナマケモノは、中南米の熱帯林で、ワシやジャガーなどの天敵に見つからないよう、なるべく動かず風景に溶け込むように暮らしています。前後の足のツメを木に引っかけ脱力して過ごす独特のライフスタイル。毛はコケが生えやすい構造になっていて、体がうっすらと緑色になることもあります。

トイレは7~14日に1回、地面に降りて用を足します。夜行性動物舎にいる1頭は近くで観察できます。



★バードホールでは屋内に雨を降らせる「スコール」を実施していますが、都合により中止することもあります。くわしくは1階インフォメーションでおたずねください。

★それぞれの動物がいる場所は下の地図をごらんください

⑦ユニークなイケメンザル

— ブラッザグエノン —

角刈り頭にオレンジ色の顎、

白いアゴヒゲが印象的なブラッザグエノンは、コントラストの美しいサル。アフリカの熱帯雨林の森や水辺に住み、サルにはめずらしく水に入るのも平気

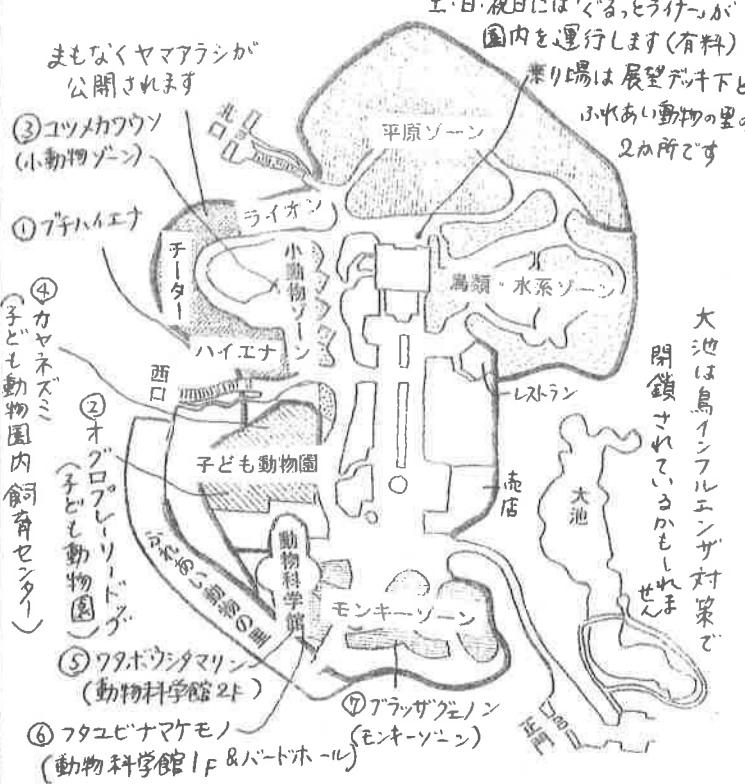
で、泳ぐこともあるそうです。リーダーのオスを中心に複数のオス、メスで4~10頭位の群れを作ります。

野生では果実や昆虫、園では好きなリンゴ、バナナ等の果実、煮サツマイモ、ニンジン等の野菜、ゆで卵やミルワームも食べます。

上品で静かな印象ですが、あくびをした時に見える鋭い犬歯は迫力満点。2020年に来園したオスのユッケ4才は、メスのマドカ7才に遠慮気味でしたが、今ではエサも先に取りに行く頼もしいパートナーになり、2頭で仲良く動き回る姿が見られます。

土・日・祝日には「くる」と「けー」が
国内を運行します(有料)

乗り場は展望デッキ下と
ふれあい動物の里の
2か所です



★夜行性動物舎は昼夜逆転しています

動物科学館1階の夜行性動物舎では、動物たちの夜の行動が見られるよう早朝に照明を消して月明かりくらいの暗さにしています。昼間の様子を見たい方は、午後3時40分ごろに明るくなりますからその後で行ってみてください。